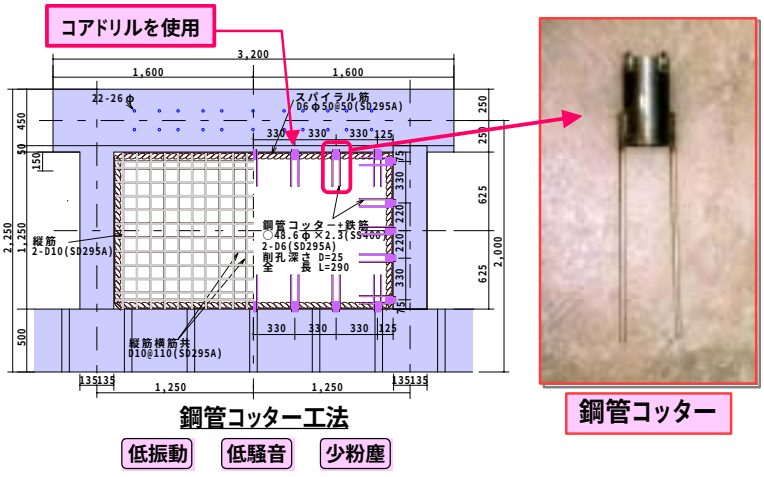
耐震壁増設に低振動･低騒音･低粉塵での接合施工

鋼管コッター工法では、既存躯体との接合部において、従来のあと施工アンカーに代えて鋼管コッターを用いる。施工にあたってはコアドリルを使用して、既存躯体に鉄筋のかぶり厚さの範囲で円形の溝を掘り、定着筋付の鋼管を挿入して樹脂接着剤で固定するもので、耐震壁やブレースを増設するために開発した工法である。

[特徴]

- 低振動、低騒音、低粉塵のため、居たままの施工に最適
- 鉄筋コンクリート造耐震壁、および鉄骨ブレース補強に対応
- 工期短縮
- はつり作業を低減
- 鉄筋のかぶり厚さの範囲で円形の溝を掘るため、既存躯体が鉄骨鉄筋コンクリート造の場合には、大幅なコストダウンと工期短縮が可能
- GBRC　性能証明　第 03－04 号（日本総合試験所）
- 特許　第 3384992 号
- 特開 2002－327542
- 接合部工法比較：従来のあと施工アンカー工法に比べ
  ①工期：約 1/3　②コスト：約 1/3　③せん断耐力：約 4 倍

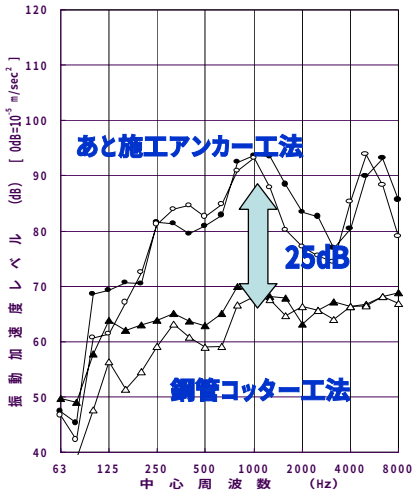
建物全景



鋼管コッター工法

低振動　低騒音　少粉塵

鋼管コッター



振動加速レベル（25dB 軽減）

[建物概要]

- 所在地：　－
- 主用途：庁舎
- 建築面積：　－　㎡
- 延床面積：　－　㎡
- 階数：地上－階/地下－階
- 構造種別：　－
- 標準工期：33 ヶ月
- 標準工費：　－
- 採用補強法：鉄筋コンクリート耐震壁 35 面、鉄骨ブレース 15 面

[施工状況]

削溝作況

樹脂接着剤注入

鋼管コッター全景